

C型肝炎ウイルス持続感染および感染後の肝線維化の進行に関連するリンパ球サブセットの特徴[§]

Lymphocyte Subset Characterization Associated with Persistent Hepatitis C Virus Infection and Subsequent Progression of Liver Fibrosis

吉田健吾 大石和佳 中島栄二 藤原佐枝子 赤星正純 笠置文善 茶山一彰
箱田雅之 京泉誠之 中地 敬 林 奉権 楠 洋一郎

要約

本研究の目的は、原爆被爆者コホートにおける C 型肝炎ウイルス(HCV)感染後の経過と肝線維化の進行に関係するリンパ球表現型についての理解を深めることである。研究対象者は、162人の HCV 持続感染群、145 人のウイルス自然排除群、3,511 人の非感染群の 3 群から構成される。我々は、年齢、性、被曝放射線量を調整した比較において、他の二つの群に比べて持続感染群では末梢血 T_H1 細胞と CD8 T 細胞の割合が増加し、ナチュラルキラー (NK) 細胞は減少していることを見いだした。続いて我々は、持続感染群における T_H1 細胞の割合の増加が血小板数の経時的減少の加速—すなわち、肝線維化進行の加速—と有意に関連することを見いだした。その一方で、T_C1 と NK 細胞の割合は線維化進行と逆の関連性を示した。本研究は、HCV 持続感染によって T_H1 免疫が亢進されること、また、末梢 T_H1、T_C1、NK 細胞の割合が線維化進行の予測に役立つことを示唆している。

[§] 本報告書は *Hum Immunol* 2011; 72(10):821–6 (doi:10.1016/j.humimm.2011.05.029) に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト(英文)である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が出版社(Elsevier)の許可を得て作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト(英文)によるべきである。

<http://www.sciencedirect.com/science/journal/01988859>